

諸課題の克服に向けて全力で闘う



国労仙台

No. 2565
2009年10月30日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

第64回定期地方大会から

国労仙台地本第64回定期大会が9月18・19日、仙台市内茂庭荘において開催された。JR不採用問題の早期解決をはじめとして、労働条件改善、安全問題、組織強化拡大など諸課題について白熱した議論が行われ、運動方針など全議案を承認、決定した。

大会二日目

真摯で活発な討論を

大会は後藤副委員長の司会で開会し、挨拶では「今大会の課題は、政権交代後の有利な条件を活かし、不採用事件の早期解決、職場労働条件改善、組織の強化・拡大が柱。職場の諸課題と合わせて真摯で活発な討論により方針案を補強してもらいたい」と述べた。

委員長挨拶

橋本昭二委員長は、047名採用差別問題、22年の経過で54名の闘争団員が他界。仙台闘争団の菅原次男氏も。本人・家族の無念を全組合員の取り組みで晴らす。この間、全力を挙げて取り組みを行ったが結果的に解散総選挙の時期に翻弄された。一方で3・25判決を契機に公明・自民党



地本橋本委員長

内に窓口が設置されるなど環境は整った。総選挙は民主・国民新党の連立政権が誕生。慎重に対応し、政府の責任で解決を求めるが、組合員にもこれまで以上の奮闘を要する。

安全・安定輸送の確立。福知山線・羽越線脱線転覆事故の教訓が、現JR各社に十分活かされず。首都圏で連続した送電障害の発生では国交省から警告書が。設備事故だけでなく労災死亡事故が仙台でも発生。設備メンテナンス体制・安全対策の根本的な見直しが必要。車七等の検修職場では業務委託の拡大により安全な車両の提供に危惧の指摘。駅では委託駅の増加、無人体制で異常時対応が困難。乗務員は慢性的な要員不足で休日勤務が恒常化。どの部門も厳しい環境、不十分な教育と技術の継承が困難な中、

組織の強化・拡大に全力で取組もう

- | |
|-------------|
| メッセージ (敬称略) |
| 新潟地本 守橋 久仁雄 |
| 千葉地本 土井 章 |
| 東京地本 石上 浩一 |
| 高崎地本 横塚 正雄 |
| 水戸地本 佐藤 清司 |
| 盛岡地本 齋藤 庄司 |
| 秋田地本 瀨下 一司 |
| 長野地本 平山 芳夫 |

事故の芽は身近に。安全よりも経費削減の行き過ぎた効率化施策に対し、安全・仕事総点検を全職場で実施し、改善を求める。

コンプライアンス問題。会社は徹底した教育を行うとしているが、改めるべきは経営陣と職場管理者。信濃川発電所の不正取水はJR東日本の信用を大きく失墜、西日本では事故調査委員会に対する不適切な接触している。安全・コンプライアンスの徹底には、健全な労働関係が必要不可欠。長年の徹底した国労差別で職場は荒廃し傷跡が。東日本・貨物も一括和解をしたが、簡単に払拭されず、その実態が「あつせん申請」として中労委に。改めて健全な労働関係の構築に向け、懸案事項の解決・差別是正の運動に力を注ぐ。

10・9 JRバス冬期ダイヤ交渉
10・9 貨物経営協議会 冬期提案
10・18 第64回定期地方大会

福島駅の新採者の加入は大きな勇気と自信になったが難しさと厳しさも。教訓を活かし今後の拡大に結びつける。選別・差別を受けながらも組織と運動を維持し、新たに国労に加入している事実が我々の運動の正しさを証明。組織と運動を次世代に引き継ぐ。

平和と民主主義を守る闘い。政治反動化に反対し、平和憲法を守る闘い、反原発の闘いに積極的に参加し、来年行われる参議院選挙では、護憲勢力の拡大に向け取り組む について発言し決意を述べた。

執行経過を承認

議事に入り、大会延期承認を得た後、締結した協定を大沼書記長が提案。

08年度決算報告を中島財政部長が行った後、代田会計監査員より会計監査報告を受けた。更に会館事業報告と予算の報告を中島事務局長が提案。続いて08年度活動報告と09年度運動方針(案)を大沼書記長が一括提案した。

激励と連帯の挨拶

来賓挨拶は政党、友誼組織など多くの方々から受け(下記参照)。東日本本部を代表して挨拶に立った松井正義書記長は、東日本本部の取り組みと課題として1047問題について「政権交代を受けての対応策として、10月28日に各地方毎に地元選出国会議員要請(衆院)。11月末に院内集会または星陵会館における全会派・全党派の集会を開催し、そこに向けた百ヶ所集会の取組み、組織拡大に向けた取組みの強化、10月16日に長野で49歳の復帰があり、昨年の大会以降31名が国労に。毎月の拡大が途切れず続行。昨年は千葉で組織拡大交流集会を開催

優良機関紙表彰

恒例の機関紙表彰では、東北工事事務所分会の機関紙「るばた」が地方本部規定30号を超える56号を発行

- 来賓 (敬称略)
- 社会民主党 菅野 哲雄
 - 日本共産党 福島かずえ
 - 宮城県平和労組会議 菅原 厚
 - 宮城県交通労協 岩井 義信
 - 東北労全宮城県本部 伊藤 恵一
 - 全交通経済生協 佐藤 勝雄
 - 退職者の会仙台地連 伊賀 泰
 - 国労議員団 国井 豊重
 - 佐藤 幸夫
 - 石川 建治
 - 松崎 新
 - 松井 正義
 - 国労東北協議会 瀨下 一司

運動方針を採択

大会二日目は、開会冒頭に08年度決算承認と、09年度予算(案)が中島財政部

長から提案された後、引き続き、方針及び予算質疑を再開した。一般討論13名、前日の経過討論と合わせて21名が積極的に発言した。代議員の質疑に対する各専門部からの答弁を受けた後、二日間の発言を受けて、大沼書記長が行った集約に対し代議員からの異議は出されず、09年度運動方針（案）並びに09年度予算（案）が採択された。

スト権を確立し地方委員などを選出

続いて出席代議員35名中、35名を確認してスト権一票投票が行われ、賛成35名で確立された。

執行部体制

執行委員長 橋本 昭二 仙総

執行副委員長 中島 利彦 宮城

書記長 曾我 浩之 宮城

五十嵐 敬 福島

執行委員 大沼 元 宮城

武田 昌仙 山形

佐藤 勝 宮城

歌川 弘 福島

岩井 幸二 宮城

会計監査員 阿部 春雄 宮城

安斎 則之 山形

本田 要一 郡工

役員改選は、選挙管理委員会からの報告を受け、地本会計監査、地方委員全定数通りの立候補で無競争当選を確認。最後に大会宣言を採択した。

閉会の挨拶に立った中島副委員長は、議事進行を滞りなく進めた両議長に労いの言葉をかけた後、「今大会の発言に学び、明日から職場で奮闘しよう」と述べ、最後に橋本委員長の「団結がんばろう」「三唱で大会を締め括った。

地方委員

宮城県支部（9名）

昆野 正則 伊藤 純

立山 昭仁 丸谷 豊美

舟濤 修 結城 好哲

山田 芳夫 阿部 正夫

佐藤 春男

福島県支部（4名）

山田 明彦 千葉 敏弘

堀切 彰 熊田 幸雄

郡山工場支部（1名）

阿部 政雄

仙総所支部（3名）

神山 和千雄 山口 智

桜井 一彦

東北自動車（1名）

兜森 秀昭

山形県支部（2名）

菅野 聡 堀内 勉

闘争団チャリティー！ 地本ゴルフ大会開催

9月30日、恒例になっていく地本ゴルフ大会が、46名の組合員の参加のもと仙台南ゴルフ倶楽部で開催された。今年大会は、10回の記念大会にふさわしく秋晴れのもとでのラウンドとなり、ゴルフ愛好家の皆さんは「今年こそは」と優勝めざして腕を競い合った。



優勝した富山さん

ラウンドを前の開会式では、大村実行委員長（仙台保線区分会）から「10回も重ねたことを数えることができ、組合員の皆さんのおかげです」と記念大会ですがストレス解消が目的、怪我なく楽しみましょう」とのあいさつが行われた。

また、来賓として出席された交通共済仙仕事業部伊賀所長からあいさつを頂き、さつそくOUTコース、INコースに別れて1組目からスタートした。

ドラコン、ニアピン勝負に歓喜の声が上がり、バーディーショットはお手もの、ティーショットが後ろに飛んでOBになる珍プレーや広いコースをわざわざ縦横無尽に駆け回ってしまう組合員の姿があり、18ホールも厳しく楽しい駆け引きが繰り広げられた。



お待ちかねの表彰式会場では、豪華商品を前に、各自に配られたスコア表を目に、一喜一憂の表情が浮かびあがった。中でも少し恐縮そうに笑みを浮かべながら優勝者のコールドを受けたのは、仙台・宮城野運輸区分会OBの富山成孝さん。大村実行委員長から優勝カップを手渡され、持ちきれないほどの豪華商品を手にした。この大会では現役時代を通し2度目の栄冠に輝いた富山さんに、会場からは表彰式を終え最後に、大沼地本書記長からは、JR不採用事件の政治解決などの課題にふれ、「全国大会でも最終局面を確認した、有利な政治環境から有終の美につなげていきたい」とJR各社との和解から粘り強く実効性を追求していく、その中で組織拡大が結果として現れている」と安



9月21日、7時8分頃、新庄発鳴子温泉行き720Dの運転士は、陸羽東線・中山平温泉駅・鳴子温泉駅間（45k500m）において、線路内にクマが入ってくるのを認め、汽笛吹鳴しブレーキを扱った。運転士は車両に接触した音を聞いたため、非常ブレーキを扱い停車し防護無線を発砲、指令（小牛田CTC）にその旨を連絡した。指令指示により防護無線を復位し、車両後部運転席より確認したところ、後方約80mの線路内に熊が倒れているのを発見。その旨を報告したところ、指令員は運転士に対し、列車から降りて現場を確認し、線路内にいるのであれば外に出すように指示を出した。当該運転士は、まだ生きている可能性もあり危険と判断し、確認は出来ないかと返答したが、しばらく押し問答が続いたという。結果的にその場から運転再開を行うこととなったが、指令員の指示に従い現場の確認をした場合、熊が生きていて逆襲に遭うことも十分考えられ、また小熊であれば近くに親熊が潜んでいて攻撃される可能性もあり、乗務員の安全を考慮しない、非常に軽率な指示といわざるを得ない。その後、新庄運輸区の乗務員訓練の場で、当該運転士と会社側は「通常このような指示を指令は行わないし、今

熊を外に出して！

後も行わない」事を確認し、新庄運輸区から小牛田CTCに対し注意をした模様である。小牛田指令員の「早期運転再開」の気持ちは分からないでもないが、しかし異常時こそ「安全は何より勝る」とことを会社はしっかりと指導をすべきでないか。

退職のお知らせ

9月30日

佐々木清吉さん

福島地区分会（駅）

吉田 博さん

仙宮運輸区分会

長い間お疲れ様でした

第14回国労東日本マラソン大会開催

期日 11月11日(土)11時集合
場所 桜田門外時計台前
皇居外周マラソンコース

